

## 会議録

会議の名称		令和7年度第1回総合教育会議		
開催日時		令和7年12月18日(木)		開会 午後2時 閉会 午後3時05分
開催場所		市役所本庁舎5階 庁議室		
出席者	市長	木津雅晟市長		
	教育委員	(出席人数:5人) 檜垣幸久教育長、小川詠二教育長職務代理者、濱松紀子教育委員、堤亜樹子教育委員、竹谷賢二教育委員		
	説明者	(出席人数:6人) 【企画政策部】 日暮部長、斎藤企画政策課長		
	その他	【学校教育部】 西村部長、佐藤学務課参事 【生涯学習部】 横田部長、中村青少年課長		
	事務局	(出席人数:7人) 【企画政策部】 松井副部長、谷口副部長 <企画政策課> 児玉課長補佐、宮田主任、遠藤主事 【学校教育部】 <教育総務課> 濱田副部長、小林係長		
傍聴人		0人		
次第		1. 市長あいさつ 2. 教育長あいさつ 3. 協議・調整事項 (1) 三郷市教育施策大綱について (2) 地域とともにある学校について 4. その他		
配布資料		次第 資料1 「教育施策大綱」の法的位置づけ 資料2 第4期教育振興基本計画(概要) 資料3 第5次三郷市総合計画後期基本計画(案) 資料4 地域とともにある学校 ～学校運営協議会・学校応援の充実を目指して～		

議事の経過	
発言者	発言内容・決定事項
事務局	定刻となりましたので、始めさせていただきます。 本日はお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。 私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、企画政策部企画政策課の

	<p>児玉と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、お手元の次第に沿いまして進行させていただきます。</p> <p>はじめに、市長からご挨拶申し上げます。</p> <p>木津市長、よろしくお願ひいたします。</p>
木津市長	<p>皆様、こんにちは。市長の木津でございます。</p> <p>本日は、大変ご多用の中、「令和7年度第1回総合教育会議」にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>日頃より、教育委員の皆様には、教育行政をはじめ、市政に対しまして、格別なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げる次第でございます。</p> <p>さて、今年は、幸房小学校が子どもの読書活動優秀実践校として、文部科学大臣表彰を受賞。さらには、高州東小学校が「全国小学校ラジオ体操コンクール」で金賞を受賞したほか、新和小学校、瑞穂中学校、北中学校の生徒が「埼玉県の青少年の主張大会」で優秀賞や優良賞を受賞するなど、素晴らしい成績を収めています。</p> <p>これらの取り組みを実施することが出来ましたのも、教育長をはじめ、教育委員の皆様のお力添えの賜物であり、深く感謝を申し上げます。</p> <p>また、今月5日には、ギリシャ共和国のサラミナ市と姉妹都市協定を締結しました。今後、文化、教育、スポーツ、産業等の様々な分野での交流を通じて相互の理解と親善友好を深めるとともに、互いの発展と振興を図ってまいります。</p> <p>今後も市では、教育委員会と連携を図りながら、「ふるさと三郷 みんながほほえむまちづくり」を通じて、子ども達の成長を見守り、夢を育んでまいりますので、委員の皆様には、お力添えを賜りますようお願いいたします。</p> <p>さて、本日の会議でございますが、「三郷市教育施策大綱について」、並びに「地域とともにある学校～学校運営協議会・学校応援の充実を目指して～」の2点を議題といたします。</p> <p>皆様には、それぞれの立場やご経験から、忌憚の無いご意見・ご提言を賜りますことをお願い申し上げ、挨拶といたします。</p> <p>本日は、よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、檜垣教育長からご挨拶をよろしくお願ひいたします。</p>
檜垣教育長	<p>皆様、改めまして、こんにちは。</p> <p>木津市長におかれましては、日頃より、教育の振興、並びに、教育環境の充実に格別なるご支援、ご協力をいただいておりますことに深く感謝を申し上げます。</p> <p>総合教育会議は、市長をはじめとする市長部局の皆様と教育委員会が本市の教育のあり方について、協議・調整を行う大変重要な場でございます。この会議を通して、未来を担う子ども達のために、より良き教育の方向性を見いだせればと存じます。</p> <p>さて、本日、教育委員会から提案させていただく、協議・調整事項は、「学校</p>

	<p>運営協議会・地域学校協働活動について」でございます。詳細につきましては、この後説明を行い、協議をさせていただければと考えているところです。</p> <p>教育委員会では、本市のこども達が健やかに学び、夢を持ち社会の一員として自立した人間に育つよう、一同努めて参りたいと存じますので、今後もご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それではこれより先の議事進行につきましては、三郷市総合教育会議運営要綱第3条に基づき、木津市長にお願いしたいと存じます。</p> <p>木津市長、よろしくお願ひいたします。</p>
木津市長	<p>それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の傍聴者の状況について、事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	<p>本日の傍聴希望者はおりません。</p> <p>よろしくお願ひいたします。</p>
木津市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第の3「協議・調整事項」の(1)「三郷市教育施策大綱について」、説明をお願いします。</p>
企画政策部 企画政策課	<p>企画政策課長の斎藤でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、「三郷市教育施策大綱について」、ご説明させていただきます。</p> <p>はじめに、資料1をご覧ください。</p> <p>「教育施策大綱」は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第一条の三により、国の「教育振興基本計画」を参照し、地域の実情に応じて定めるものとされております。</p> <p>続いて、裏面をご覧ください。</p> <p>「大綱」を策定するにあたっての文部科学省通知の概要をまとめております。</p> <p>(2)にありますとおり、地方公共団体において、教育振興基本計画その他の計画を定めている場合には、その計画をもって大綱に代えることができるとなっております。</p> <p>再度、表面をご覧ください。</p> <p>「教育振興基本計画」は、「教育基本法」第十七条第二項により定める計画ですが、策定については努力義務となっており、本市においては策定しておりません。</p> <p>現在の「三郷市教育施策大綱」につきましては、第5次三郷市総合計画前期基本計画が、国の「教育振興基本計画」を参照し、本市の実情に応じて、本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策をまとめたものであることから、令和2年度第1回三郷市総合教育会議において、第5次三郷市総合計画前期基本計画を「三郷市教育施策大綱」とすることについて、ご承認いただきました。</p> <p>今回、その第5次三郷市総合計画前期基本計画が令和7年度で終了すること</p>

から、令和 8 年度以降の「三郷市教育施策大綱」について協議をお願いするものです。

なお、後ほどご説明する資料 3 の第 5 次三郷市総合計画後期基本計画については、現在、パブリック・コメント手続を実施している計画（案）となっております。そのため、最終的な「三郷市教育施策大綱」への位置付けにつきましては、後期基本計画の策定後に書面にて総合教育会議を開催し、ご承認いただきたいと考えていることから、本日は委員の皆様から計画（案）について、ご意見をいただければと存じます。

国の「第 4 期教育振興基本計画」の概要は、資料 2 のとおりとなります。

本計画では、将来の予測が困難な時代においても未来を見据えた「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」や、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じると同時に地域や社会が幸せや豊かさを感じられるよう「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の 2 点がコンセプトに掲げられており、後期基本計画策定にあたり、参酌しております。

それでは、第 5 次三郷市総合計画後期基本計画（案）についてご説明いたします。

まず、資料 3 の 7 ページをご覧ください。

第 5 次三郷市総合計画全体の計画期間は令和 3 年度から令和 12 年度までの 10 年間となっていることから、後期基本計画は令和 8 年度を初年度とし、令和 12 年度を目標年度とする 5 か年の計画となっております。

次に、10 ページをご覧ください。

社会動向といたしまして、10 ページ下段（5）『「生きる力」を育むことの取組み』の二段落目に、『国の「第 4 期教育振興基本計画」では、将来の予測が困難な時代においても未来を見据えた「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」や、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じると同時に地域や社会が幸せや豊かさを感じられるよう「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が期待されています』とし、国の「第 4 期教育振興基本計画」の内容を整理しております。

続いて、28・29 ページをご覧ください。

こちらでは、序論で整理した基礎情報を踏まえ、三郷市に求められるものを整理しております。その中で、教育に大きくかかわる項目としては、29 ページの 2 項目目「こどもの生きる力を育む」がございます。

この項目の中で、背景として、『将来の予測が困難な時代においても持続可能な社会の創り手となる人材の育成や、日本社会に根差したウェルビーイングの向上が期待されています。また、将来の地域を支える子どもの数は減少していますが、教育に対する関心は、常に高い状況があります。』と整理し、必要なもの・求められるものとして、『こどもが将来にわたって持続可能な幸福を得るために、子どもの自己肯定感等を育む取組みが求められます。また、子どもたちが安全に、安心して学べる場の提供とともに、学ぶ意欲に対する支援などをしていく取組みが求められます。』としております。

次に、30・31 ページをご覧ください。

後期基本計画の施策体系は、前期基本計画と同様、7 つのまちづくり方針及び 3 つの経営方針で構成されております。

教育委員会に関係が深い施策としては、主に 30 ページ、まちづくり方針 2 「子どもが健やかに、のびのびと成長できるまちづくり」の施策 2-2-1「質の高い教育及び環境の充実」、施策 2-2-2「青少年健全育成の推進」、と 31 ページ、まちづくり方針 6「誰もが生きがいを持ち輝くまちづくり」の施策 6-1-1「読書を通じた交流の推進」、施策 6-1-2「読書環境の整備」、施策 6-2-1「生涯学習の推進」、施策 6-2-4「文化財・伝統文化の保存・継承」となっており、こちら 6 つの施策の詳細につきましては、後ほどご説明いたします。

次に、32 ページをご覧ください。

まちづくり方針、経営方針の中で、後期基本計画において特に重点的に取り組むものを重点テーマとして位置付けております。

教育委員会に関係が深い項目としては、二つ目の重点テーマ「多様性のある地域の確立～地域コミュニティの充実～」における一番下の項目で、読書を通じて誰もがいきいきと学び暮らせるよう取り組んでいく旨を記載しております。

また、三つ目の重点テーマ「質の高い教育と切れ目ない子育て支援の強化～こどもたちの成長を見守る・夢を育む～」においては、子どもの自己肯定感等を育むこと、こどもたちが安全・安心して学べる場の提供、こどもたちの学ぶ意欲を支援する旨を記載しております。

次に、33 ページ以降は、各施策を掲載しており、教育委員会に関係が深い施策については、先ほどご説明した 6 つが主な施策であるため、本日は該当の施策についてご説明いたします。

はじめに、54 ページをご覧ください。

施策 2-2-1「質の高い教育及び環境の充実」でございます。

こちらの施策では、質の高い教育を受けることができる機会を確保するための学習支援や教育環境の整備促進、自己肯定感や利他性、協調性、協働性など豊かな人間性や社会性を育む心の教育の推進について、記載しております。

次に、56 ページをご覧ください。

施策 2-2-2「青少年健全育成の推進」でございます。

こちらの施策では、地域の将来を担う青少年リーダーの育成、青少年や地域活動に必要なネットワークの構築・活動環境の整備について、記載しております。

次に、102 ページをご覧ください。

施策 6-1-1「読書を通じた交流の推進」でございます。

こちらの施策では、誰もが読書に親しむことができる読書活動の推進や子ども司書の育成など、人との交流を通じた取組みについて、記載しております。

次に、104 ページをご覧ください。

施策 6-1-2「読書環境の整備」でございます。

	<p>こちらの施策では、図書館や図書館資料を活用した、こども達の読書環境の整備、市内小中学校の読書教育支援について、記載しております。</p> <p>次に、106 ページをご覧ください。</p> <p>施策 6-2-1 「生涯学習の推進」でございます。</p> <p>こちらの施策では、教育・学術機関や専門家等の連携・協働した講座の開催等といった、こどもの健全育成のため、家庭の教育力向上を図ることについて、記載しております。</p> <p>次に、112 ページをご覧ください。</p> <p>施策 6-2-4 「文化財・伝統文化の保存・継承」でございます。</p> <p>こちらの施策では、郷土の歴史を学ぶ場として魅力ある郷土資料館を目指すとともに、本市の歴史や文化財への関心や愛着を深めていくことについて、記載しております。</p> <p>以上が、後期基本計画（案）の概要と、教育関連施策についての説明となります。</p> <p>後期基本計画が、前期基本計画と同様に、国の「教育振興基本計画」を参照した、本市の教育や文化の振興に関する総合的な施策をとりまとめたものであることから、第 5 次三郷市総合計画後期基本計画を「三郷市教育施策大綱」に位置付けるにあたり、委員の皆様からご意見を頂戴できればと思っております。私たちの説明は以上でございます。よろしくお願ひいたします。</p>
木津市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、ご意見等ございましたら発言をお願いします。</p>
檜垣教育長	<p>資料 3 の 55 ページ、施策 2-2-1 「質の高い教育及び環境の充実」の施策実現のための取組みにおいて、「児童生徒の学力向上」が最初に掲げられており、こちらは私達教員の使命だと思っています。</p> <p>また、2 項目目の「心の教育の推進」も大変重要だと思っています。現代は AI の発達により、人間関係が希薄化してきている。社会を形成するのは人であるため、人の心を豊かにしていくことはとても重要だと思っています。</p> <p>この後、教育委員会から協議させていただく案件も関係するが、多くの人と関わることによって、豊かな人づくりになると考えています。それは、こどもや関わってくれる大人にもプラスになることだと思うので、計画に掲げている「心の教育の推進」を大事にしていきたいです。</p>
小川委員	<p>後期基本計画の策定過程において、様々な市民意向調査やワークショップの実施など、実態調査をしたうえで計画に反映していると感じました。</p> <p>教育に関する内容についても、学校教育・青少年教育のほか、読書も含めて施策体系の中に直接落とし込まれていることが良いと感じました。</p> <p>特に、ワークショップの報告書を拝見したところ、「三郷市の課題は、「三郷市といったら?」という目玉が商業施設になってしまう。三郷市を盛り上げる、愛着を持てるようにするためにには、自分や市民ができる取り組みとして、『日本一の読書のまち』をもっと広めていけるようにしたい。」という意見がありました。この意見を出したのが小学生か中学生かは分からないが、こどもからこの</p>

	<p>のような意見が出たことに対し、とても嬉しく感じました。こどもの心の中に『読書のまち』が浸透しており、これをもっと盛り上げることで三郷市の課題は商業施設だけではないと言えると思います。</p> <p>計画（案）の記載について一点思ったこととして、54・55ページの施策2-2-1「質の高い教育及び環境の充実」で、『質の高い教育』という単語自体が充実している状態を表していること、また、重点テーマにも掲げられており、よく考えられていると感じました。『充実』という単語は攻めた言葉かと思いますが、『推進』や『改善』ではなく充実している状態を目指すまたは維持するということで、市の意気込みを感じました。関連して55ページの施策実現のための取組みで、「児童生徒の学力向上」という項目があり、タイトルに掲げられている『充実』という言葉と対応させて、「教育活動の改善に取組みます。」の記載を、「教育活動の改善、充実に取組みます。」とし、『充実』という単語を加えることで、タイトルとの整合性を取りながら、その状態を保つ、目指すと読めるので、より良くなるのではと感じました。</p>
濱松委員	<p>質の高い教育について思うこととして、自分の子どもがお世話になっている小中学校でも、毎年のように休職される先生がいると伺うことがあります。休職されると他の先生が代わりに対応されると同時に、こども達にとっても落ち着かない環境になってしまうと思います。</p> <p>質の高い教育を実現するためには、先生が教育に集中できる環境がとても大事であり、こどもにも良い影響を与えると思います。働き方改革もされているかと思いますので、改善されることを願います。</p> <p>未来のこどもたちが三郷で育ち、教員を目指したいと思う子どもが増えたら嬉しく思います。</p>
堤委員	<p>普段クリニックの仕事をしており、患者さん、特に高齢者の方とお話しする機会が多いのですが、孤独でいらして中々生きがいもなく、仕事を探すにしてもなかなか見つからない、ボランティアといつてもなんとなく行く気にもならない、という方が多いと感じています。その中で、学校教育のボランティアは、かなりニーズがあるのではないかと思うので、学校と地域の関わりが上手くマッチング出来たら良いと思います。</p>
檜垣教育長	ぜひ、進めていきたいと思います。
竹谷委員	<p>先ほど小川委員より意見の出た誇れる場所について、物理的な場所ではなく『日本一の読書のまち』という理念がすごく良いと感じました。</p> <p>私自身普段から運動をするため、セナリオフィールドをよく利用します。そこで、市内小中学校の合同練習会を目にするときども達の頑張っている姿は生き生きしており、レベルの高い取り組みをされている印象を受けました。</p> <p>そのように、いまある場所の有効活用を教育の現場として、市内で均等に質の高い体験を様々な分野に広げていけると良いと思い、そのような機会の創出が非常に大事だと感じました。</p>
木津市長	ありがとうございます。

	<p>他にご意見はございますか。(意見・質問なし)</p> <p>色々とご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>小川委員からも意見がありましたが、三郷市として何を訴えていくか、特色をだしていくかという中で、『日本一の読書のまち』を最初に宣言するにあたり、当時は果たして本当によいのかと疑問視しながら進めていました。その中で、柳田先生(『日本一の読書のまち三郷』応援団長)の後押しもあり、文部科学省の方々をはじめ、全国から読書に関係する方にも来ていただいた中で、三郷市が宣言してよいと言っていただき、スタートした経緯があります。翌年3月に議会の同意を得て、『日本一の読書のまち』を掲げましたが、振り返ると、新聞記者から、「『日本一の読書のまち』を宣言したが、この後は何をするのか」という問い合わせを受けました。私自身は、最初から何かをするのではなく、一つにまとまっていくことが大事であると思い、始めていきました。活動の中で、『家読』という文化が、三郷から全国やギリシャにも伝わっていると感じています。</p> <p>『日本一の読書のまち』の宣言にあたっては、そのような経緯がありますが、私としては、これを消さずにより充実させて取り組みを進めていくべきだと思っています。また、『日本一の読書のまち』は、生涯学習だけでなく、学校教育も含めて一丸となり取り組んでいかなければ、三郷市が『日本一の読書のまち』にはならないと感じています。現在、様々な工夫をしながら取り組みをしていると思っており、ギリシャ共和国のサラミナ市と姉妹都市を締結したので、さらに充実していくと国際的にも幅広く繋がると考えており、もう少し『日本一の読書のまち』を売り出していくと、こども達も三郷市で学んで頑張っていることが誇れるのではないかと思います。ひいては、三郷市は『日本一の読書のまち』であることが定着してくれると思っています。</p> <p>また、竹谷委員からスポーツの話がありましたが、陸上競技場を造るにあたって、県に対し、隣の第二大場川が溢れた際に水を溜める施設があるので、年間2~3回は水が溜まることを承知のうえで要望していました。横浜にある日产スタジアムのサブグラウンドを参考に、広い土地を有効活用せず、そのまま調整池にするのはもったいないと思っていました。</p> <p>注目された陸上競技場であったため、あの広い土地を新たに調達しようとすると約80億円かかるが、区画整理地の調整池であったため有効利用ができました。また、大型ビジョンもあるが、これは区画整理の成功した例であり、市の予算ではなく区画整理した事業の予算で設置しました。大型ビジョンがあることにより関東ラグビーのチームが試合をする等利用頻度が高く、陸上競技場そのものが一般的な競技場よりグレードアップしており、とても良かったと感じています。さらに有効利用されると、優秀な児童生徒が育ってくれると思います。</p> <p>また、各委員から出された意見についてはどのようになりますか。</p>
--	---

企画政策部 企画政策課	<p>いただいたご意見については、現在実施中のパブリック・コメントで寄せられたご意見とあわせて参考とし、その後、計画素案としてまとめさせていただきます。</p> <p>計画確定後、改めて委員の皆様に総合教育会議にお諮りし、最終的に三郷市総合教育大綱として位置付けることを承認いただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
木津市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>いま担当課から説明がありましたが、方向性について皆様のご意見を伺いながらまとめ、パブリック・コメントとあわせて対応していくということでした。こちらの方向性について、皆様ご異議ないでしょうか。（異議なし）</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、「協議・調整事項」の(2)「地域とともににある学校～学校運営協議会・地域学校協働活動の充実を目指して～について」、説明をお願いします。</p>
学校教育部 学務課  生涯学習部 青少年課	<p>学務課でございます。</p> <p>本日は「地域とともににある学校」～学校運営協議会・学校応援の充実を目指して～と題し、お手元の次第に沿って、ご説明させていただきます。なお、途中より、青少年課から説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>内容はお示しした3点になります。</p> <p>なぜ今、「地域とともににある学校」が必要なのか、その背景と理由について、ご説明いたします。</p> <p>出生数は昭和24年の240万人をピークに2024年以降は70万人を割る68.8万人と、過去最少を更新しました。</p> <p>市内においても一部の小学校を除き、児童生徒数は年々減少傾向にあります。少子化と並行して進行しているのが、地域社会のつながりの希薄化です。</p> <p>本市においても、核家族化、単身世帯の増加、ライフスタイルの多様化などが進んだ結果、地域コミュニティが長年担ってきた「共助」の力が失われつつあると実感しています。</p> <p>地域のみならず、三郷市の小中学校の課題も複雑化・多様化しています。</p> <p>いじめ、増加する不登校、SNSトラブル、発達の特性や学習に困難さを抱える子どもの増加、外国籍児童生徒への対応、学習の多様なニーズへの対応、個への学習支援等教育の質の向上、環境整備等々課題は山積みで、学校だけで課題を解決するのには限界を迎えてきています。</p> <p>学校が主体となって解決に向かうべき課題も多くある一方で、地域との協働により、課題の解決を図ることのできるものも多くあるのではないかと考えております。</p> <p>特に、教育の質の向上については、専門的知識の多い方に授業の支援をしていただくことで、本物に触れる教育を進めることができます。また、外国籍や学習に困難さを抱える児童生徒には、ボランティアにより個への対応をするといった解決策が考えられます。</p>

	<p>さらに、学校安全や環境整備については地域の方々の力を借りし、通学路の見守りや草木の剪定など、力を借りることができるのでないかと考えています。</p> <p>このように、学校課題の共有とその解決方法について地域の方々と協議する場が学校運営協議会です。</p> <p>ここで、「学校運営協議会」についてご説明します。</p> <p>委員は、保護者や地域住民の方々、学識経験者や地域の推進役など、多様な立場の方々で構成されております。</p> <p>この多様な構成こそが本制度の強みです。子育て世代のニーズや専門的な知見、地域の歴史といった多角的な視点を学校運営に活かすことができます。これにより、学校は地域からの信頼と共感を得ながら、より開かれた、地域に根差した教育活動を展開できるようになります。</p> <p>また、構成員の選定が重要で、各組織のリーダーを委員に取り込むことで組織がより強固なものとなります。</p> <p>従来の学校評議員との大きな違いとしては、学校運営方針の承認があげられます。</p> <p>学校の基本的な運営計画について、地域からの視点で内容を吟味し、承認することで、計画の透明性と実行力を高めます。さらに、学校運営全般についての意見を述べることもできます。</p> <p>校長や教育委員会に対して意見を伝えることで、関係者全員が当事者意識を持ち、こどもたちの成長を支える体制を確立することもできます。</p> <p>それでは、好事例を紹介させていただきます。</p> <p>彦成小学校では学校運営協議会を活用し、様々な学校課題を解決しています。</p> <p>学校運営協議会において、校長から、学区が交通事故多発地域であること、大雨による河川の増水が危険水位直前まで到達したことなどが報告されました。</p> <p>続いて、地域からも通学路の安全や防災対策の必要性について声が上がりました。</p> <p>熟議の結果、委員と学校が行うことの役割分担を明確にしました。</p> <p>委員は危機管理防災課と連携し、避難所運営委員会の設置を進めることとし、学校は危機管理防災課と連携した洪水対応避難訓練を実施することができました。</p> <p>このように、学校・地域の課題を学校運営協議会の委員が中心となって、学校・地域の課題を包括的に解決する活動を総称して「学校応援」と言います。</p> <p>ここからは、青少年課より説明させていただきます。</p> <p>学校応援は、地域全体でこども達の学びや成長を支えるとともに、『学校を核とした地域づくり』を目指す活動です。地域と学校が対等なパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を指します。</p> <p>これまで活動してきた PTA、青少年育成市民会議、中学校区地域青年育成</p>
--	---

会、放課後子ども教室の他、埼玉県が独自に力を入れ、本市でも推進してきた「学校応援団」も、この学校応援の1つです。

つまり、この活動に対する参画者は今までとほとんど変わりません。変わるのは、組織のつながりです。

今まででは、独立した各組織・団体それぞれと学校が連携を図っていました。

しかし、これからは各組織・団体が「横のつながり」を強化し、1つの輪となった地域と学校が連携を図り、学校と地域の課題解決につなげるかたちへ変わります。

ここで、「学校応援」の好事例として、彦成中学校の取り組みをご紹介いたします。

彦成中学校では、環境整備や外国籍生徒への学習支援が大きな課題となっていました。

この課題を解決するため、令和6年度をもって地域青少年育成会を休止し、ボランティアグループを新しく組織しました。学校整備を行う「グリーンセンター」と、外国籍生徒に言語指導を行う「日本語教室」の2つです。

この仕組みの成功の鍵は、コーディネート役でした。各ボランティアグループのリーダーを元PTA会長などが担い、学校とボランティアグループの連絡・調整役を、元地域青少年育成会長が担いました。

このように、学校応援が学校の意図をしっかりと受け止め、学校が抱える具体的な課題を解決した好事例です。

また、成果は学校課題の解決にとどまりません。実際に協力いただいた地域の方々からは、「生徒たちと関わる中で日常に張り合いが出て、やりがいを感じられた」という声も届いており、地域活性化という、協働活動の理想的な効果が現れています。

このように学校・地域に相互に利益が出た好事例を紹介しましたが、これは学校運営協議会と学校応援の「連絡・調整」が一役買ったと言えます。

それが10ページの赤字で示した学校応援推進員です。

主な役割は、学校と地域の「つなぎ役」です。

教育委員会として、この学校応援推進員の確保に努めるため、青少年育成市民会議と連携し、広報・宣伝、人材発掘・育成をしていく必要があると考えています。

地域の発展のために貢献することをモチベーションにしている方は、必ず地域の中にいます。

その人材には、育成会で中心的な役割を担ってくださっている方や学校応援団コーディネーターの方が適任だと考えています。

また、学校運営協議会の委員が推進員を兼ねることで円滑な組織運営が可能となる場合も考えられます。

立ち上げ時には校長や行政が主導しながら推進員を推薦していくことも必要になります。

先述した、学校運営協議会、学校応援、この2つをつなぐ、学校応援推進員

の活動が充実することで、学校と地域が相互に利益を得られる社会が作られると思います。

ここで、三郷市としてできることをより具体的に申し上げます。

11 ページの中央一番上、学校運営協議会では、各地域で活躍する団体、組織のリーダーを委員として委嘱し、幅広いネットワークを活用しながら多様な意見・資源を反映させ、地域の特性を活かした教育の実現を目指します。

その下、学校応援推進員では、教育委員会から委嘱をすることにより、使命感をもって活動に取り組めるよう背中を押します。また、表彰や感謝状を授与したり、活動実績等を称賛していくことも必要です。

さらに、情報発信や研修会を実施し、よりよい活動を共有・実践できる環境整備も行い支援していきます。

推進員のやりがいが「生きがい」になるよう努めて参ります。

最後に中央一番下、学校応援では、既存の教育力の在り方を見直し、アップグレードや統合、発展的解消を行うことでスムーズかつ実行力を伴う制度設計を行います。

また、「中学校区地域青少年育成会」と「学校応援団」の機能を統合し、「学校応援」の活動支援として「青少年育成市民会議」との連携についても、地域の方々にご意見をいただきながら検討を進めております。

11 ページの両脇をご覧ください。

その中で大切にしたい視点は、学校と地域がそれぞれ利益を得ることができる、Win-Win の関係性です。

この視点、関係性を大切にすることで、実効性と持続性が生まれます。

学校側についてです。

多様な体験を通じた「本物」の学びが提供できるようになり、学校内だけでは得られない、地域の自然、伝統、産業、職業などに触れる機会が増え、子どもの興味・関心の幅を広げ、教育の質の向上につながります。

また、地域全体での一貫した見守り活動が浸透することにより、子ども達の安全と健全な成長を支えます。

ひいては、「三郷市で学ぶことが好きだ」「三郷市に住み続けたい」と郷土愛を育成することができます。

続いて、地域側についてです。

学校とつながることで、他者との交流の機会が生まれます。活動をし、子どもや学校から喜ばれたり、感謝されたりする経験が当人の生きがいにつながります。

一人で家に閉じこもっている方も少なくない現状、学校に関わることが、外出するきっかけになり、それが人とつながるきっかけになるという好循環になり、地域全体が元気になります。

以上の具体的な取組及び視点をもつことで、学校・地域がもつそれぞれの課題を解決し、三郷市が目指す地域と学校が相互に利益を得られる社会を、三郷市教育委員会として実現してまいります。

	<p>さて、本日の結びとしまして、本日の内容を改めてご確認いただきたいと思います。</p> <p>本日のキーワードであった「学校運営協議会」、「学校応援推進員」、そして「学校応援」の3つの仕組みは、地域と学校が手を携え、未来を担うこどもを育むために、必須の取り組みとなります。</p> <p>この活動は、決して学校のためだけのものではありません。地域住民の皆さんのがいが増すこと、地域コミュニティが活性化することで、地域そのものを活性化させる力を持っています。</p> <p>本制度が効果的に機能することで、学校は地域にとって開かれた存在となり、地域は学校教育に新たな活力を提供することとなります。その結果、持続可能で魅力ある教育と地域づくりが、必ず実現します。</p> <p>本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。</p>
木津市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明について、ご意見等ございましたら発言をお願いします。</p>
堤委員	<p>資料11ページの図で、両側に学校と地域、中央につなぎ役という構図がとても分かりやすく、何か良いアイデアがあってもどこに繋げればよいのか分からないという部分に関しては、学校応援推進員がいればその方にアプローチをすれば良いので、とても良いと思いました。</p> <p>また、こども達の「三郷市をこのような街にしたい」というアイデアがたくさん見られるので、こどもが企画する、またはこども自身が企画し、参加できるような場を想定すると、教育力にも未来にもつながると思いました。</p> <p>さらに、地域側からの目線では、自分に合った企画を選べることが参加へのハードルを低くできるのではないかと思います。例えば、何かを綺麗にすることであれば、そのような事が好きな方は選ぶことができます。また、外国人に言葉を教えることが好きな方もいると思うので、自分にあったものを選択するのが良いと思います。いくつか企画の内容と、時間は具体的にどれほど要するのか、自分だけ参加すればよいのか、終わる時間がどのくらいなのか等が分かると、選んで参加しやすいのではないかと思いました。</p>
濱松委員	<p>今まででは学校の課題を解決していくために保護者や先生はPTAという組織があり、地域は学校応援団があると思うが、それが一体となった形で学校の課題を解決していくという構図は、コンパクトでとても分かりやすくなると感じました。</p> <p>こども達のための活動という共通の方針で、それに対して協力していく中で親側のメリットとしては、こども達が安心安全に学校生活を送れることがあります。また、地域としては、学校を利用して地域活性化に繋げていけるという互いにメリットがあるので、持続していくのではないかと思いました。</p> <p>ただ、担い手について、やはり推進員の発掘が難しいと思うため、推進員となるメリットの周知やアピールを効果的に行なうことで、担っていただける人が見つけられると思いました。</p>

竹谷委員	<p>堤委員と濱松委員からもご意見がありましたが、学校応援推進員の役割が大事であり、同時に担う方の発掘は難しいということは私も感じました。この計画をどのように実行していくか、何から始めていくかということは非常に重要なと思います。各学校に対して1人か複数人かは分かりませんが、推進員が生まれるため、各学校や三郷市の中で、連絡会として意見ややり方の共有など、横の繋がりと推進員の方が孤立しないようなケアを、教育委員としてもやる必要があると思います。</p> <p>また、好事例の紹介で彦成小学校の授業中の写真が使われていますが、この授業参観に例えば推進員や協議会の方々が、実際に学校の中に入り、私たちが見守っている生徒はこんな子だという共通認識を持てると良いのでは、と写真を見て思いました。そのように保護者だけでなく、地域の授業参観も推し進めることも良いと思いました。</p> <p>推進員になる方の立場としては、この子達をより良い学習・教育に繋げていくという自負が生まれると思います。直接授業にまで関与する訳ではないが、放課後の学校だけという断片ではなく、まずは見てもらうことが大事ではないかと思います。</p>
小川委員	<p>大変わかりやすく整理し、ご説明いただいたと感じました。</p> <p>新しい組織での活動を推進するための中心となる推進員ですが、その中心となる人の配置が一番ポイントになると思います。これまでの経験により、適切な方がいるかもしれないし、新たに委託や認定するという形があるかもしれません。その中心となる人の配置については、さらなる努力をしていただければと思います。</p> <p>また、本日ご説明いただいた取り組みはすごく良いと思いますし、彦成中の外国籍生徒のニーズへの対応も良く、どの地域でもできると良いと思いました。その他にも、小さなことでもできることから、その地域でできることを一つずつ推進していく取り組みを通して、充実に向けて活動を進めていただければと思います。</p>
檜垣教育長	<p>教員自身、地域の学校という認識は強く持っています。</p> <p>しかし、正直なところ、働き方改革という言葉が独り歩きをしてしまっており、骨抜きにならないよう、自分たちがなぜその仕事をして、何をしようしているのかを見失わないようにしていきたいと思います。</p> <p>さらに、濱松委員が心配されていたように、教員がすべてを担うのではなく、役割分担を見極めながら進めていきたいと考えています。</p>
木津市長	<p>色々なご意見をありがとうございます。</p> <p>地域と学校が一体となり学校運営をする必要があるという話でしたが、外国人対応等、それぞれの地域により差もあると思いますが、できるところから対応しつつ、徐々に市内全域に浸透していかなければと思います。</p> <p>また、説明の中で彦成小学校と彦成中学校の事例がありましたが、幸房小付近で交通事故があった際、彦成小学校が集団登校し、地域の人たちが子ども達</p>

	<p>を見守って学校に登校させたことを聞きました。いま振り返ると、彦成小と地域との関係が行き届いている証拠かと思います。</p> <p>他の地域も地域と学校が一丸となって進めていくことで、災害の時にも役立つかと思うので、こちらも念頭に置いて活動していただけると、子ども達にとって安心安全な学校教育に結び付くのではないかと思います。今後も皆様からご意見等ありましたら、よろしくお願ひいたします。</p> <p>その他、何かご意見ありましたらお願いします。(意見なし)</p> <p>それでは、ご意見がないようですので、「地域とともにある学校」について、委員の皆様にご了解いただきました。</p> <p>今後も、三郷の教育の更なる充実が図られる事を期待しております。</p> <p>本日の協議・調整事項について、すべて終了いたしました。</p> <p>進行にご協力いただきましたことに御礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>木津市長、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第の4 その他に入ります。</p> <p>皆様から何かご意見やご質問等はございますか。(意見・質問なし)</p> <p>それでは以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。</p>